

平成 30 年度事業報告書

自：平成 30 年 4 月 1 日
至：平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 愛恵協会

平成30年度 愛恵協会事業報告

平成30年度については、幸田町での福祉サービス拠点として4月に幸田町障害者地域活動支援センターの指定管理がスタートするとともに、老朽化したステップやまなかを旧竹千代温泉跡地のなかしばエリアに移転し、「新たな拠点づくり」と地域交流を図る為の環境整備に取り組むことが出来ました。

また、28年6月にリニューアルした多機能型生活保護施設 愛恵園・愛恵園授産所が、愛知まちなみ建築賞に続き12月に地域社会への貢献が認められ中部建築賞を受賞しました。

ハードのみならずソフト面においても11月に優良男女共同参画事業所の表彰を受けた他、生活困窮者支援対策、障害者福祉サービスを岡崎市・幸田町の福祉計画に沿って進め、今まで以上に当事者主体・チーム支援を意識した活動を展開できました。

1. つどい作業所・つどいの家の指定管理を円滑に進め、全事業所の安定した事業運営を目指し、地域と連携できる体制の整備を図ります。

幸田町直営で前年度実施していた全ての施策を実施した他、民生委員会や町議会への報告会等新たな展開も実施することができました。今後は祝日開館やショートステイ併設協議など更なる前進に努めます。

2. なかしばエリアの環境整備を進め、新たな拠点作りとしてステップやまなかの整備及び地域交流の場として活用します。

同エリアで協会春まつり・グランドゴルフ大会を開催し、予想以上の地域交流ができました。また、ステップやまなかも平成31年3月に移転することができました。

3. 地域生活を支えるため、各機関の連携によりショートステイ・日中一時・グループホーム・居宅介護事業等の充実に努めます。

旧第7宿所を活用した地域生活への移行準備を行い、11月に愛知県から「住宅確保要配慮者居住支援法人」の指定を受けました。これは宿所を緊急一時的な利用と位置づけ、関係者間で生活状況や課題の把握を行い、課題に対応した移行時期を設定し、30年度は3名が利用して入所訓練施設やグループホームへ移行しました。

4. コンプライアンス（法令順守）の徹底を図り、職員・利用者や関係機関の権利を尊重したガバナンス（組織統治）並びに健全な財務規律の確立を図ります。

深尾顧問弁護士による「施設事故 法的責任の考え方と対応方法」、愛知県政出前講座を活用し、「人権への気づき」等のテーマ研修等を実施して法令順守の徹底、権利擁護の周知を図りました。
財務規律の確立については、主任を対象とした経理研修を行い意識の向上に努めました。

5. キャリアアップとして職能団体等への加入や活動をとおして自己研鑽に努め、利用者支援力の向上に努めます。

社会福祉士会、介護福祉士会、精神保健福祉士会との協働のほか、研修委員会を中心として職員が受講した外部研修内容の発表会を実施し、職員の支援力向上に努めました。

6. くるみん認定にともなった職場環境作りに取り組むと同時に、愛恵協会職員としてのプライドを持ったマナー・ルールで行動することに努めます。

働きやすい職場作り委員会を中心に職場環境作りを進めた結果、11月に男女共同の先進的な取り組み事業所として、岡崎市から表彰を受けました。

平成30年度理事長行事等出席報告

- 第1回岡崎市障がい者自立支援協議会出席 4/10(火)
- 岡崎市社会福祉審議会出席 4/12(木)
- 岡崎市社会福祉審議会障がい者福祉専門分科会出席 4/12(木)

- 山中学区歓送迎会出席 5/11(金)
- 愛知県社協社会福祉法人経営者委員会常任委員会出席 5/17
- 岡崎肢体不自由児・者父母の会総会出席 5/24(木)
- 山中学区ふれあい大運動会出席 5/26(土)

- 第2回岡崎市障がい者自立支援協議会事務局会議出席 6/18(月)
- 第2回岡崎市障がい者自立支援協議会出席 6/25(月)
- 愛知県精神障害者福祉協会総会出席 6/29(土)

- 大橋謙策先生講演会出席 9/20(木)
- 山中学区まちづくり協議会設立総会出席 9/28(金)

- 名古屋刑務所被収容者運動会出席 10/26(金)午前
- 幸田町町民向け自殺予防講演会出席 10/26(金)午後
- 山中小学校学芸会出席 10/27(土)
-
- 第66回愛知県社会福祉大会処理委員会 11/19(月)
-
- 役員対象なかしば見学会出席 12/11(火)
- 第3回岡崎市障がい者自立支援協議会出席 12/17(月)

- 山中学区社協・福祉委員会反省会出席 2/2(土)

- 愛知県社協社会福祉法人経営者委員会常任委員会出席 3/11(月)午前
- 第4回岡崎市障がい者自立支援協議会出席 3/11(月)午後

平成 30 年度 生活保護部門 事業報告

多機能型生活保護施設・更生施設 愛恵園

運営の安定に欠かせない定員確保を意識した。結果、98%の入所率を維持することが出来た。通所事業については、定員9名（通所6名、訪問3名）に対して利用承認者は通所5名、訪問3名の実績となった。

日中の作業プログラムや生活プログラム、就労支援を通じて地域生活への移行を図った。また岡崎市委託事業である生活保護者就労支援・就労準備支援や30年度から開始された生活困窮者自立支援事業によって多機能型生活保護施設の機能を発揮した。

ぷらっとホーム

地域の防災訓練や清掃活動等への参加を通じて、地域住民としての自覚を促した。また共同住居のサービス支援員として生活訓練事業所あい、おたまじゃくしとの連絡調整に努めた。

愛恵園授産所

作業科目については、農業を中心とした野菜の生産、販売、加工と自動車部品組立等の作業に取り組んだ。また新規に自主加工1社と下請1社を追加し、さらに自主製品を開発して黒字化を達成した。

利用者確保については、就労支援員との協働やケースワーカーの施設見学を通して確保に努めた結果、利用率は96%を維持することが出来た。また通所率の向上を図るため、入所促進ワーキンググループによる居宅訪問を行った。

今後も利用者確保の意識を職員間で強く持つ。

平成30年度 生活訓練部門事業報告

障がい者が地域生活を継続するために欠かせない社会資源を担う部門ですが、この岡崎市・幸田町ではまだまだ不足しているのが現状です。当部門では、少しでもサービスを利用していただける機会を増やし、効率よく利用してもらうことに努めました。まだまだ不十分なことは認識していますので、今年度の振り返りを来年度に活かしていきます。

<生活訓練事業所あい（宿泊、日中、自立生活援助）>

家族教室を積極的に開催することにより、本人にとって最も身近な保護者の不安や希望等の想いを話しやすい環境を構築することで、退所後の生活について、本人だけでなく保護者の希望を取り入れて進めることができました。また、平成30年5月から開始した「自立生活援助」によって、生活訓練事業所あい退所後の利用者さんのアフターフォローが関係機関と連携し、手厚く提供できるようになりました。

<ショートステイあいあい・日中一時支援あいあい・自立生活援助事業所あいあい>

利用者の希望に沿ってサービスを提供するだけでなく、今まで以上に重度の障がいを持った方を幅広く受け入れる体制を構築することで、新規契約だけでなく、年間の利用者を増やすことができました。

<あいけいホーム・あいけいホームⅡ・あいけいホームⅢ>

平成30年度は役割を明確にしてチーム支援を行うことに取り組んできました。ホーム体験利用においては、目標を80日以上に設定し、新規見学対応から体験継続利用まで関係機関と協働して支援した結果、目標値を上回る98日の利用支援を行うことができました。また、アパートへの地域移行者1名の支援もチームで行いました。

<おたまじゃくし>

利用者やそのご家族のニーズに応じた支援計画を作成するのに不十分なところもあり、一部の利用者にはニーズに沿った支援が行き届かなかったことが反省点です。また、毎月1回のヘルパーミーティングや法人内外の事業所や相談事業所などの関係機関との連絡会議を通して、支援の共通化を図るとともに、情報の共有化やヘルパーのスキルアップに努めました。

平成 30 年度 相談部門事業報告

1. 相談支援事業について

電話・来所・訪問等、相談者の状況に合わせた相談対応を行い、相談者が安心して相談できる環境作りに心がけたが、新規相談や動きのあるケースへの対応に追われ、利用者の生活を定着させる支援に手薄になりがちであるため、バランスの良い支援が出来る様にしていきたい。

サービス等利用計画については、支援件数が多い為優先順位を付け、利用者状況に合わせた計画作成や定期的なモニタリングを通して利用者ニーズの把握に努めることできたが、今後は、各事業所のサービス管理責任者と共有できる体制作りも行っていきたいと思えます。

岡崎市委託相談事業については、計画相談を兼務する相談支援専門員に対して、委託費が 30%の減額があり相談事業所では約 360 万円の減額となり、運営が厳しい状況になってしまった。

2. 障がい者就業・生活支援センター事業について

国事業である雇用安定事業については、一般就労 59 件（目標 40 件）・職場実習 38 件（目標 33 件）の実績を残すことができたが、就労移行支援事業所との意見交換会について年 2 回予定が 1 回しか出来なく、意見交換や情報交換等による関係作りが不十分になってしまった。

県事業の生活支援については年 6 回の働く仲間の交流会で社会生活に必要な情報提供やレクレーションによる余暇支援を行う事ができた。年々希望者が増加しているので、参加できる人員の見直しが必要になっています。

また、就業支援担当者の経験不足もあり、きめ細かな支援が出来ない事もあった。

平成 30 年度セルフ・生活介護部門事業報告

セルフ・生活介護部門(愛恵ワークス,舞木ワークス,ステップやまなか,多機能事業所てんじん)

(共通事項)

法人の理念,方針,計画に基づき事業展開を行い他のセルフ・生活介護部門との連携を取りながら、各事業の充実を図った。

○生活介護事業

安心して過ごせる場所の提供を行い,ヒヤリハットの事例を検証し事故防止に努めた。愛恵ワークス,舞木ワークス,多機能事業所てんじん事業報告参照

○就労継続支援 B 型

工賃向上計画に基づき,目標工賃を設定し,達成するための取り組みをおこなった。愛恵ワークス,舞木ワークス,ステップやまなか,多機能事業所てんじん事業報告参照

○就労移行

移行支援プログラムを充実し,利用者に必要な知識,能力を高め,就労実績を上げた。舞木ワークス事業計画参照

平成 30 年度 幸田町事業部門事業報告

幸田町から既設の障害者地域活動支援センターの指定管理を受託した初年度で、同地に愛恵協会としての事業拠点を設置した年度でありました。

愛恵協会としての経験を活かし、幸田町および幸田町住民の信頼を得、協会の運営を勘案しながら事業展開を行いました。

以下に、各事業の報告をいたします。

1 幸田町障害者地域活動支援センター（指定管理）

ア) つどいの家

- ・関係者（区長、民生委員等）への挨拶を行った後、昨年までの引き続き利用は全て継続し、新たに愛恵としての施策を模索いたしました。

イ) つどい作業所（生活介護、就労移行支援、就労継続支援）

- ・支援内容について、利用者が不安を持っているようなので、当面は幸田様式で継続し、徐々に愛恵色を出していくように努め、利用者及び親族からの信頼を得ることができました。
- ・利用者アンケートにより祝日開館の希望が多かったため、幸田町と協議し平成 31 年 4 月から祝日開館といたしました。
- ・利用者数が目標に達しなかったため、今後、関係機関と連携し利用者増に努めます。

2 生活支援センターこうた

- ・つどいの家内に生活支援センターを、幸田町社会福祉協議会内に基幹相談支援センターを設置したことによる連携の不十分事例が見受けられたものの、幸田町からの信頼は得られたと考えています。

3 幸田町生活困窮者支援事業

- ・愛知県、西三河事務所及び幸田町との連携はとれ、相談内容について県からお褒めをいただきました。
- ・学習支援事業については、利用登録者が定員を上回りました。
- ・11 月から協会独自で、幸田町こども食堂を開設しました。

以上

平成30年度 法人事務局事業報告

◇ 会計経理事務

法人を取り巻く環境も「障害者自立支援法」に変わり、平成25年度より「障害者総合支援法」が施行されました。サービス内容等は変更されませんが、施行5年経過後の現在、就労支援その他の障害福祉サービスのあり方等を検討されています。サービスに求められていることを、再認識することが必要になりました。

法人事務局の課題であった新会計基準への移行については平成25年4月から実施しました。新会計基準の理解を深めるために、事務局職員が各職場の職員会議に出席し、試算表の説明については、6年連続実施しています。これにより、経営情報の積極的な開示により、経営の関心を促しました。

☆ 平成30年度試算表説明実績

◎ 7月から8月にかけて、各事業所の職員会議にて予算、試算表の説明を行いました。

☆ 平成30年度主任経理研修実績

◎ 11月から12月にかけて、各事業所の主任と希望する管理者に基本的な経理の説明を行いました。研修参加者：17名

◇ 事務局の現況

30年度を振り返ると、新会計基準の移行から6年を経過し本格的に法人経営へ舵をとった時期だったと言えます。事務局においても、平成30年度法人事業計画に従い事業を展開しました。

管理者による管理目標の設定ヒアリング・中間面接・目標達成報告等の実施等を行いました。中間面接において各管理者に「職員数は現状とし職員身分は変えないという前提で、収入拡大の方策」についてレポートの提出を求め、経営に対する意識を高める機会を作りました。そして、平成25年度からけた労務管理関係業務については肅々と事務を進め衛生委員会主催による産業医による研修会は2回実施ができました。また、メンタルヘルスチェックも産業医の指導によって2月に実施しました。

☆ 研修実績

平成 30 年度 事務局研修説明会参加 一覧表

日時	内容	場所	参加者
平成 30 年 5 月 14 日	平成 30 年度第 1 回社会福祉法人研修会	岡崎市福祉会館	辻 敬雄
平成 30 年 9 月 6 日	平成 30 年度公正採用選考人権啓発推進委員研修会	岡崎市シビックセンタ —	鈴木久義
平成 30 年 9 月 14 日	平成 30 年度第 2 回社会福祉法人研修会	岡崎市福祉会館	井上眞谷
平成 30 年 9 月 26 日	労務管理研修会	岡崎市シビックセンタ —	石原健吾